

在宅看護援助論 I

| | | | | | |
|---|----|--------------|----|-------|---------|
| 2020 年度入学 2 年次 | 単位 | 1 単位 (15 時間) | 講師 | 片川 裕子 | 実務経験の有無 |
| | | | | | 有 |
| I. 学習目的：在宅における医療技術の知識を習得し、看護に求められる様々な援助技術を学ぶ。 | | | | | |
| II. 学習目標 1. 様々な医療を必要としながら在宅で生活している対象者の現状を理解することができる。 2. 在宅で用いられる医療機器、機材等について学び、観察や管理上の留意点、必要な看護援助について理解できる。 3. 事例を通し、在宅でその人らしい生活を維持していくために必要な看護や制度等の理解ができる。 | | | | | |
| III. 学習内容 1. ストーマケア 2. 膀胱留置カテーテル法 3. 経管・経腸栄養法(胃ろう他) 4. 在宅中心静脈栄養法 5. 褥瘡 6. 外来がん治療の支援・疼痛緩和 7. 在宅酸素療法とは (HOT/NPPV) (COPDの療養者に対する在宅看護の事例展開) 8. 在宅人工呼吸療法 (HMV) と排痰法 | | | | | |
| IV. 評価方法：筆記試験 | | | | | |
| V. 教材：系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 | | | | | |

在宅看護援助論Ⅱ

| | | | | | |
|---|----|-------------|----|-------|---------|
| 2020 年度入学 2 年次 | 単位 | 1 単位（15 時間） | 講師 | 松井 光子 | 実務経験の有無 |
| | | | | | 有 |
| I. 学習目的：在宅療養に関連する制度や生活の場に応じた援助方法の知識を活用し、看護過程を展開することにより、在宅看護の必要性や連携を考える。 | | | | | |
| II. 学習目標 | | | | | |
| 1. 在宅療養者の特徴をふまえた看護過程の展開ができる。 | | | | | |
| 2. 在宅療養に関連する制度の理解や生活における援助や連携を考えることができる。 | | | | | |
| III. 学習内容 | | | | | |
| 1. 在宅看護過程展開の視点について | | | | | |
| 2. 紙上事例による看護過程の展開（各種制度を活用し、在宅療養を希望する対象者） | | | | | |
| ／全 8 回 | | | | | |
| IV. 評価方法：筆記試験 80% 提出物 20% | | | | | |
| V. 教材：系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 | | | | | |

在宅看護概論

| | | | | | |
|-------------------|----|--------------|----|-------|---------|
| 2021 年度入学 1 年次 | 単位 | 2 単位 (30 時間) | 講師 | 松井 光子 | 実務経験の有無 |
| | | | | | 有 |

I. 学習目的

1. 在宅看護の概念を理解し、看護の対象および在宅における看護の役割について学ぶ
2. 在宅における看護技術、在宅看護の現状や課題について学ぶ

II. 学習目標

1. 在宅看護の対象について理解できる。
2. 家族のアセスメントの重要性を理解できる。
3. 在宅看護の現状を理解できる。
4. 在宅看護の役割を理解できる。
5. 在宅で求められる看護技術の応用を理解できる。
6. 在宅看護に関連する制度・他職種・関係機関について理解できる。
7. 在宅看護に携わる上での態度の形成ができる。

III. 学習内容

1. 在宅看護の目的と特徴 (概念、在宅看護のめざすもの、在宅における看護師の役割と機能など)
2. 在宅看護の対象者 (対象者の特徴、家族について)
3. 在宅看護に関係する制度、社会資源、動向
4. 在宅看護の展開に関連する知識、考え方等 (権利保障、安全など)
5. 在宅で求められる看護技術の応用
6. 在宅看護技術演習 (高齢者疑似体験、片麻痺体験、入浴介助の方法、介護用品の理解や工夫)
7. 在宅における看護援助の基本と態度についての演習 (身だしなみ、マナー、コミュニケーション、バイタル測定など)

／全 15 回

IV. 評価方法： 筆記試験

V. 教材： 系統看護学 統合分野 在宅看護論 医学書院